

第三百九十二回 青葉会 年忘れ句会

平成三十年十二月五日(水)

鈴木演芸場(昼席) 見物↓午後六時半〜九時 築地「紅蘭」にて忘年句会

〈選者〉 川口孤舟

伊賀山そらお(句会のみ) 今井紀久男 大林猛 川口孤舟 久米五郎太

小西弘子 山田けい子(句会のみ)

小早健介 豊田ゆたか 宮内規雄 渡邊盛雄

《互選句》

四点

◎ 枯れ蓮の池に暮れゆく空の紺
顔見世や巳之助肩から踊り出す
全 (そ・紀・五・け)

三点

◎ お別れ会すませ師走の寄席にをり
真打(しんうち)の締まらぬ漸冬温し
紀久男(そ・孤・弘)
五郎太(紀・け)

二点

◎ すつぽりと師走の寄席に沈み居り

◎ 思はざる人に出会いし年の暮

◎ 短日や灯ともし頃を独り酒

◎ 終活の吾にも似たり冬薔薇

◎ 秋場所や独り支えし幼な顔

やうやつと黄葉(もみじ)来たるやわが郷に

◎ 弁天堂枯葉の中のライトアップ

◎ 高座はね忘年句会に浸りをり

◎ 年の瀬や方向音痴を又やれり

◎ 念入りにルーペ拭きみて冬灯(ともし)

◎ 出囃子に急かされ現(ある)る年の暮

◎ 破蓮(やぶれはむ)ライトアップの辯天堂

◎ 年の瀬や嘶の枕は慶応四年

◎ 物狂ひ山々廻(めぐ)る小春かな「花月」

◎ 湯豆腐や書院で供さる名料理

◎ 行く年や如来三世の法話聞く

◎ 古寺の紅葉微笑む大原女

◎ 食ぶるなど夫(つま)丹精の大みかん

◎ 水底の魚も眠るか浮寝鳥

◎ ひさかたの若き仁王ぞ冬博多

◎ 二十二歳(にじゅうに)の突き押し冴(さ)へる黄景勝

以上文責 紀久男

平成三十年十二月 青葉会報

一、昼の鈴木は円丈ら期待外れ(五人参加)、夜の句会も風邪で欠席者多く七人出席。投句4人。小生持参の純吟辛口「一の蔵」(宮城県)、紅蘭ご主人心尽しの手料理を賞味しつつ、猛さんの司会で快調に進行、御覧のように弘子さん圧勝。今年活躍された孤舟さん、弘子さん、けい子さんへカレンダー3本(歌舞伎座と落語協会)を贈呈。どぜうの飯田屋の卓上カレンダーを猛さんに贈呈してお開きとしました。

当日の回覧は社友会HP掲載の「若葉会」(亡くなられた恭延さんや天牛さん集合写真真付)小生の三木会合同句集「2017年さんもく集」とその豆本(両方共手造り)、朝日新聞切抜き(人間国宝の山彦節子師のこと)等。

どうぞ佳いお年をお迎え下さい。

平成三十年十二月十六日

紀久男記